

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872200290		
法人名	社会福祉法人 すはま会		
事業所名	グループホーム陽だまり		
所在地	茨城県鹿嶋市平井1350-332		
自己評価作成日	平成31年 3月 5日	評価結果市町村受理日	令和元年 6月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0872200290-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	平成31年4月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが安全に穏やかな日々を送れるよう支援しています。
ベランダの花の手入れや観賞、日光浴を楽しんでいます。また、転倒予防体操に力を入れて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し入った住宅が点在する場所に立地している。設置法人はデイサービスや在宅ケアセンター、有料老人ホーム、経費老人ホーム等を同一建物や周辺建物で運営しており、相互に連携し協力体制が築かれている。
当該事業所は2階にあるため食堂やリビングからの眺めがよく、利用者は明るく広々とした空間の中で思い思いに毎日を過ごしている。
管理者、職員は理念に掲げた「ゆったりとした安心できる環境で、楽しい毎日を過ごす。」を実現できるよう日々の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、ミーティングの時に理念の唱和をし共有しています。また、事務所の壁に貼り、常に意識し、業務にあたっています。	法人の理念の他、管理者と職員で作成した事業所独自の理念を作成し、朝礼時や職員会議時に唱和して確認している。「ゆったりと安心できる環境」にそぐわないような支援（急かすような言動等）をする職員が見られた場合には、管理者が一呼吸を置くよう注意し、常に理念に沿った支援を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園・幼稚園の運動会、生活発表会に招待され、交流しています。	月1回の傾聴ボランティアやハーモニカ演奏のボランティアを受け入れているほか、市主催の認知症傾聴ボランティア養成講座の実習に協力している。法人の夏祭りに地域の人を招待し、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症の傾聴ボランティア養成講座の実習に協力しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施している。利用者やサービスの実際を報告し、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています。	定期的に開催しているが、現在は家族等の参加が得られていない。会議の内容としては事業所からの報告に留まり、意見や情報交換の場とはなっていない。	運営推進会議への家族等の出席を呼びかけるほか、活発な意見交換の場になるよう工夫することを期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、相談・助言を受け協力関係を築くよう取り組んでいます。	市役所、事業所双方に書類のやりとり用ポストを設置して交流している。市の介護長寿課とケアマネ会が合同で開催する研修会に出席し、交流しながら情報を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の電子錠は施錠実施。（安全確保の為） 身体拘束は無。	運営規程、契約書、重要事項説明書に身体拘束を行わないことを明示するとともに、玄関に啓発ポスターを掲示している。定期的に研修を行いながら、身体拘束をしないケアの取り組みをしている。やむを得ず玄関の施錠等を行う場合には、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止の研修を受けています。虐待を見過ごさないように注意を払い自分自身も防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、委員会で情報交換を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回発行する陽だまりニュースと一緒に、家族へ要望書を同封して、家族等の意見を反映させています。	重要事項説明書に苦情受付窓口を明記し、玄関にも掲示している。家族等の来訪時や電話連絡の際には意見や提案がないか聴くように心がけているが、事業所の運営に関する意見を聞くまでには至っていない。	無記名式の家族アンケートの実施や敬老会時に家族等が来訪する際などを利用しながら、家族等から意見等を得て運営に反映することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎期、GH推進会議で運営に関する職員の意見や提案を聞き、反映させています。	職員からは職員会議時に話を聞いたり、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めて、意見や要望を聞くようにしている。職員からの提案で、居室清掃の回数を増やした。日常のレクリエーションは職員が自由に作成したり、実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課面接を年に1度設けて話し合いを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を実施し職員を育てる取り組みをしています。また、新しい職員はOJTで指導しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネジャー会の研修会等に参加し、情報交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居1ヶ月は毎日バイタル測定をして、目配りを行う。色々と話を聞き、安心していただけるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等より、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、必要としている支援を見極めて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と家族的な関係を保ち、共に過ごし、支え合う関係を築いている。洗濯物たたみ等一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、家族と情報の共有を行い、信頼関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来た時は、居室や食堂でゆっくりお話していただき、楽しい時間となるように支援しています。	入居時のアセスメントや日常の会話から聴き取りをし、把握するよう努めている。家族等や知人の面会時には居間や居室でお茶を出して居心地よくし、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルに留意し、穏やかに共同生活を送っていただけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や会話の中で思いや意向を見つけられるように努めています。	毎日利用者ごとに何をしたいか希望や要望を聴きながら支援にあたっている。意思疎通が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や仕草で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で聞いたり、家族より伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時は1ヶ月目配りを強化し、変化があった場合は24時間集中管理を記録に残し、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づいた事は報告・相談を行い援助に反映させ運営会議では積極的に意見交換や援助検討を行っています。	家族等や本人の意向をもとに、職員間で話し合い、計画作成担当者である管理者が計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本6ヶ月で見直しを行っている。利用者の状況に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきについて留意し、Sシステム入力、引継ぎ時など、細やかな情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良で居室での生活が難しい利用者の場合、夜間を共用の和室で安定するまで援助を行い、よくなったら居室で生活するように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流会等に参加して楽しんでいただけるよう支援しています。傾聴ボランティア、ハーモニカボランティア、2ヶ月に1回の床屋さんを支えていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に継続して診ていただいております。また、病気により適切な医療を受けられるように支援しています。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。受診時の付き添いは家族が行い、状態を記したメモを預け、医師に渡してもらい、連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パソコンに入力することで、法人の看護師が確認しているため、必要な時にアドバイスが聞ける。内科医の往診を受ける時は看護師に支援してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症のため、最小限の入院期間となるように、家族・ソーシャルワーカーと相談しながら支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、医師・家族と話し合い、方針を共有し支援します。急変時の対応を職員で共有しています。	看取りを行わない事業所であるが、重要事項説明書に看取りに対応すると表記されている。	重要事項説明書内の「看取りについて」の文言の見直しと家族等への説明が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は内部研修、普通救命講習の勉強をし、初期対応の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等、定期的に実施しています。	夜間想定避難訓練を年1回実施した。訓練後課題について話し合うまでには至っていない。災害に備えた備蓄品を、一覧表を作成して管理している。	避難訓練の年2回の実施と、訓練後の課題抽出、改善に向けた取組を期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の人格・誇りなどに留意しながら援助を行っています。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮しており、利用者を「さん付け」で呼び、丁寧な言葉使いをしている。人権尊重や守秘義務について研修を行ったり、話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が自己決定できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	指輪をつけたり、イヤリングを付けたり楽しんでいます。 きちんと身だしなみが整うよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目でも楽しめるよう、きれいに盛り付けることを心がけています。	利用者の好物や苦手な物を踏まえた献立の工夫をしている。利用者はそれぞれの能力に合わせた手伝いをしている。職員不足のため、なかなか外食に出かけられないため、お弁当をとるなどして工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の管理栄養士による献立で提供しています。経口補水液を毎日作り、水分量を確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきをしていただき、夜は入れ歯を預かりポリデント洗浄をして清潔を保っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人のADLにあった下着・リハパンを着用し排泄の失敗・清潔に留意しながら支援しています。	各居室にトイレが設置されていることにより、排泄の自立への動機付けとなっている。肌の弱い利用者には、利用者にあう声かけで、パットとリハビリパンツ使用から布パンツに変更できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整・運動の働きかけを行い便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆっくり入れるようにしています。ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じていただいています。	入浴は基本週2回午後からとなっている。ゆず湯やしょうぶ湯などを行い、季節を感じている。入浴を好まない利用者には時間や職員を替えるほか、シャワー浴などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の生活習慣に留意して援助を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服薬内容に留意しながら援助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや干していただいたり役割が持てるように支援しています。レクリエーションなど日中活動に留意しながら援助を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として買い物や散歩などを一緒に行っています。	天気の良い時には、利用者は職員と一緒に散歩に出かけている。利用者の高齢化のほか職員不足で事業所周辺の散歩しか外出支援できていないが、一部の利用者は特別な場所の外出ができるよう家族等の協力を得て支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に小銭を持っていた方は必要な時に支払いをして頂きました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった際はその都度、家族と連絡が取れるように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感に留意し、利用者の不快・混乱の原因となる刺激などないよう、工夫しながら援助を行っています。	ベランダに季節の花を植木鉢に咲かせ、利用者は外気浴や日光浴をしながら楽しんでいる。窓越しに置かれた椅子に利用者は座り、利用者同士が語り合う場所となっているほか、襖で仕切られた畳敷きのスペースもあり、それぞれにくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全確保のうえ本人の意向に沿えるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやテーブル・イス等持ち込んでいただき、安心できる居室にしています。	どの居室もつまずきや転倒防止に、整理整頓されている。職員が毎朝居室の換気をし、エアコンの温度設定をして居心地よく過ごせるようにしている。防災カーテンや使い慣れた寝具などを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼紙・手すりなど各個人に合った物を使用して安全・自立支援を念頭に置いた工夫を行っています。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム陽だまり

作成日 令和元年 6月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	12	重要事項説明書内の「看取りについて」の文言の見直しと家族等への説明が望まれる	看取りについての見直し、家族等への説明	重要事項説明書の見直し、家族等へ説明	6ヶ月
2	3	運営推進会議への家族等の出席を呼びかけるほか、活発な意見交換の場になるよう工夫する	家族等の出席の呼びかけを行う	参加可能な家族等に呼びかけを行う	3ヶ月
3	6	無記名式の家族アンケートの実施や敬老会時に家族等が来訪する際などを利用しながら、家族から意見等を得て運営に反映する	家族アンケートを実施し、家族から意見等を得て運営に反映する	家族アンケートを実施。	6ヶ月
4	13	避難訓練の年2回の実施と訓練後の課題抽出、改善に向けた取り組み	避難訓練に参加し訓練後の課題抽出を行う	法人の避難訓練に参加し訓練後の課題抽出を行う	6ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。